



上智大学大学院
文学研究科ドイツ文学専攻

大学院 修了生 17人の今



教員・研究分野

ドゥッペル・メヒティルド

● 現代ドイツ文学、比較文学・文化

小松原 由理

● ドイツ語圏アヴァンギャルド芸術・文学

三輪 玲子

● ドイツ現代演劇

中井 真之

● ゲーテ、ヤコービ、ドイツ文芸思想

中村 朝子

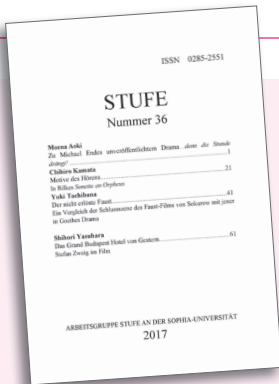
● 20世紀を中心としたドイツ語抒情詩

佐藤 朋之

● ドイツ・ロマン主義時代の文学・芸術・科学

ツェムザウアー・クリスティアーン

● 現代ドイツ文学と20世紀のオーストリア文学



研究活動

文学研究科ドイツ文学専攻では研究業績を大学院 *stufe* 刊行委員会が発行する機関誌『STUFE』に前期課程院生は1回、後期課程院生は2回以上発表することを推奨しています。*stufe* 刊行委員会は院生で構成されています。

2019年中間発表会

その年に執筆予定の論文について、口頭で発表し、他の院生や先生方からアドバイスを受けられる貴重な会です。



*修士課程修了生

1 キリスト教関連事業所の出版部門で編集の仕事をしています。翻訳本の翻訳、原文照合、校正が中心です。大学院在籍は、どこかにしわ寄せを生み出す生産や消費と距離を置いて、人間の現実に自分を晒す(贅沢な)時間です。そこで真摯に向き合って得たものは、その後何を生業にしようとも、二年分の給与よりも価値があるように思います。

(2002年 修士課程修了)

2 私は最初は主にドイツ語の大学テキストなどを出版している会社に就職しましたが、今は高校教科書、辞典、一般書などを出版している会社に勤め、英語関連書籍の編集の仕事をしています。私の周りには私と同じように修士課程を修了した人が多く働いています。

出版社で編集の仕事をした場合、当たり前ですが、まずその出版社がどのような出版物を出しているかを調べる必要があります。そして、その会社でどのような本を作りたいか(誰に、どのようなことを書いてもらいたいかなど)を考えておく必要があります。

どのような本を作りたいかを考えるとき、実際に編集の仕事をしたことがないのに…、や、こんな夢みたいな話をして笑われるのでは…などと遠慮する必要はありません。修士課程まで進まれたからには本との付き合いはより濃いものになっていると思います。これまで読んできた本の中から記憶に残っているものを、どうしてその本がよかったのか、どこに感心したのかを見直してみるとよいと思います。そこで見つけた観点を他の題材や他の分野などにアレンジしてみることから始めてみてはいかがでしょうか。

(2002年 修士課程修了)

3 私は監査法人の事務職員として、公認会計士の秘書や人事業務を担当しています。大学院では時に意見交換も交えながらしっかり文献を読み込む授業が多く、楽しみに思う授業がたくさんありました。授業以外にも修論で取り上げた作家の勉強会に参加させて頂いたことも貴重な経験でした。

大学院で学んだ知識は日々の業務に直結はしていませんが、例えば修論のようなひとつの成果に向けて粘り強く取り組み仕上げる力など、社会でも役立つスキルを身につける機会がたくさんあると思います。

(2011年 修士課程修了)

4 現在、大学事務職員として、窓口対応や履修相談のような学生相手の業務から、カリキュラム整備や入試などの業務まで幅広く担当しています。大学院ではバハマンを扱いました。自分の問題意識に真剣に取り組んだ2年間は、とても貴重な時間でした。学生や研究者を相手にする時、自分自身の大学院での体験が役立っていると感じます。どんな職業でも、自分の軸で考え決断することを求められるので、一つのことをひたすら考え研究する経験は必ず役立つと思います！

(2011年 修士課程修了)

5 私は研究者向きではありませんでしたが、大学院という場所で、色々な人に囲まれて、自分と向き合ったことは私の人生の質を少し変えました。物事に自分がどういう感想を持ったのか、自分なりの言葉にできるようになっているように思います。それは自分自身を見つめることでもあるようです。今図書館で働きながら、この人は何を求めているのかなどと考えるとき、大学院生活で培ったものがいくらか活かしているように感じます。

(2015年 修士課程修了)

6 大学院の魅力は、やはり1つのことをじっくり考えられ、そして少人数で密に色々な考えを分かち合えるということじゃないでしょうか。現在菓子メーカーの企画部に勤務していますが、当時培った1つのことをとことん研究してそれをアウトプットするという力は、お客様が求めるものが何かを推察して、商品を企画して形にしていく上でとても役立っていると思います。

(2015年 修士課程修了)

7 私は現在、メーカーで貿易業務をしています。海外とのやりとりは英語ですが、英語以外の言語を学んだことは間接的に役立っていると体感しています。大学院では、文献を読み、ゼミで議論を交わす日々でした。熱意ある先生方や院生と色々な話をできたことは大変有益な経験でした。

(2016年 修士課程修了)

8 現在、病院の本部で事務職員として働いています。大学院では、学部より専門的な分野を学ぶことができます。自分の知らない作品に触れることで、自分の興味を広げて、修士論文を書くときにも役立ることができました。大学院の2年間は、自分の考え方や価値観を形成する期間となり、ドイツ文学という枠を超えた知識や教養を身につけることができました。これは社会人になっても役立っています。

(2017年 修士課程修了)

9 学部生のころはサークル活動に明け暮れ、勉強はほとんどしませんでした(2年生に進学できないかも!)と焦って先生のところに相談に行ったり、できの悪い学生でした)3年生の冬に、周りに流されるように就職活動を始めました。が、まったくうまくいかず…。「自分は今、何をやりたいのか」と改めて考えたときに出てきた答えが「もう少し勉強してみたい」でした。自分がこのような選択をしたことは本当に驚きで、先述の先生にも「まさかあなたが進学するとは思わなかった」と言われました。

修士課程の2年間は、これまでの人生で後にも先にもあんなに勉強したことはないというくらい勉強しました。せっかく修士課程まで行くのだから何か形に残るものを、と思い、学部時には履修しなかった教職課程も取りました。先に社会に出た友人たちの頑張る姿を見て、自分は今後どうしていきたいんだろうと考え、悩む2年間でもありました。

「勉強を続けるにしても、一度は社会に出てみなくてはだめだ」と思ったので、今度は前向きに就職活動に取り組みました。当時は「大学院生はお断り」と選考にさえ参加させてもらえない会社もありました。「ドイツ語を活かせる仕事を」と思って、出版社などを受験していましたが、紆余曲折あってマスコミの管理部門(事務職)に就職しました。人事部、経理部を経て、現在は厚生部という部署で、社会保険関係の業務を担当しています。門外漢の私がなぜ採用されたのかいまだに疑問なのですが、「文学部の修士卒」ということを面白がってくれたのかもしれないと思います。当時は「3年くらい働いてお金を貯めたら辞めてドイツに留学しよう」と思っていたのですが、結局退職することなく現在に至ります。

「就職活動は運と縁だ」と、私を採用してくれた人事部長に言われました。実際に人事部で新卒採用にも関わった立場でお話するならば、どんなに優秀でも「うちの会社とはカラーが違う」「優秀すぎる」という理由で採用に至らないことがあります。逆に「経験や知識はないけれど、面白い人材だ」と採用に至ることもあります。私自身は、このケースだったのではないかと思います。

現在は結婚し、2回の産休、育休を経て、仕事、家事、育児でドタバタの毎日を送っています。大学院で学んだ事は、現在の生活、仕事には直結していないかもしれませんが、けれど、あの2年間がなければ今の自分はなかったと思います。当時は「ずいぶんと回り道をしてしまった」と思っていたけれど、私には必要な2年間でした。

(2004年 修士課程修了)

10 私は現在、輸送用機械製造・不動産開発を行う会社の秘書室に勤務しています。ドイツ語に直接触れる機会は残念ながらあまりありませんが、それでも大学院での経験が、今の私を形作ってくれていると実感しています。大学院時代の文献研究で培った、何事にもなぜ?と自発的に疑問を持つこと。そして、他の見方も出来ないかどうか自分自身で調べ、深く考えるという習慣は、現在の日々の業務においても生きています。

大学院での濃密な知的探求の時間は、その後社会人生活を送る上でも、豊かな糧となってくれるはずですよ。

(2016年 修士課程修了)

11 私は現在、スイス人の弁護士事務所の秘書として働いています。大学院へ進学する決意をしたのは3年次の終わり頃です。上智大学ドイツ文学科での最初の二年は、第一にドイツ語を覚えること、そして第二に「ドイツ文学」の広大な歴史とジャンルを把握することにかかりきりになる人が大半かと思います。しかし3年生になると、新たに文献演習や文学研究などの授業が加わり、自分がどの時代のどの分野、更には言えどの特定の作家に心が惹かれるかがわかってくると思います。？私自身は世紀末ウィーンという区分に興味を持ち始め、卒業論文に向けて資料や文献を集めて読んでいきました。そしてその過程でどんどん知ることのめり込んで行くうちに、まだまだ自分のドイツ語が未熟であることを痛感しました。将来語学を要する仕事に就きたかったこともあり、ならば大学院に進学し、文学研究を通してドイツ語を学ぶのが最適ではないのだろうかという結論を出しました。

大学院での授業は学部の授業と比べて重厚で、しっかりとした予習と発言を求められます。とは言っても、その分一日の授業数は多くても2コマ程度であり、少人数で行われることから、先生方からよりの確にドイツ語と研究指導をして頂けます。また先輩方からも同様に沢山の助言を受け、時には意見を交わし、文章の構成や考えのまとめ方等の様々な点においても成長することができました。笑いと驚きと感服が絶えない日々だったと振り返ってしみじみと思います。

私は最初に述べたように、現在は弁護士事務所の秘書として働いています。大手新卒採用サイトを介した就職活動以外にも、多言語を必要とする一般求人にも直接問い合わせる履歴書を送り、最終的にその枠で頂いた内定を受けました。まだまだ秘書としては見習いという立場ですが、主に任されている翻訳を始め、校正、代書、書類作成などの業務は大学院で学んでいなければ身につけていなかったものだと思います。私のように、学部生時代に留学するタイミングを逃した方、更にドイツ語を学びたい方、そして言うまでもなくドイツ文学の研究がもっとしたい方には、大学院進学を強くお勧めしたいです。

(2017年 修士課程修了)

12 私は現在、コンサートや舞台などのイベント、博物館や美術館の展示などの企画運営に関わる仕事をしています。ドイツ文学とはあまり関わりがないように思われるかもしれませんが、実際は私が大学院生の間に学んだことの多くが仕事で活かされています。

大学院では文学はもちろん、演劇や映画、音楽や絵画など、なんでも自分の好きなことを学べる環境があります。特に私が興味を持っていたのは踊りや演劇、芸能について、上智の文学研究科ではそれらも研究テーマにし自由に学ぶことができました。学部生時代の私は成績が良くなく、3年生になり就職活動を意識し始めた頃、「自分は学部で何を学んだのか。やっと少しドイツ文学が分かるようになったのに、このまま卒業し就職したら、就職活動のために大学に通ったようなもので虚しい。もっと学んで、ドイツ文学科を卒業したのだと堂々と言えるようになりたい」と思ったのが大学院進学のきっかけでした。

多くの人が学部を卒業後すぐに社会人になるため、大学院に進学したら遅れをとるのではと心配する人もいるかもしれませんが、私はむしろ大学院の3年間に興味のあることを思う存分学んだことが就職に強く結びつきました。修士課程の3年間、何にも邪魔をされずに自由に学べた贅沢な時間は人生の宝です。

(2019年 修士課程修了)

13 ドイツ・フランスの磁器やクリスタルブランドの日本総代理店で、主に翻訳・通訳業務に携わっています。就職活動ではドイツとは無関係の様々な業界の面接も受けました。就活において「大学院で学んでいる」ということは、就職を難しくすると思われがちですが、面接などで自分の経験値は他の大学生とは違うことを感じ、若い学生を採用したい企業ではなく、能力を評価してくれる企業を探しアプローチしました。「大学院で学んでいる」ことの強みを再認識し、マニュアル通りの就活から一歩踏み出し、今の会社に新卒で採用していただきました。大学院生が大学生と同じ土俵に立っても、目を向けてくれる企業は少ないかもしれません。しかしドイツ語の文献を様々な角度から解釈するのと同じように、広い視野を持ってアプローチすることで、道を拓くことができると思います。幸いなことに、私は大学院での勉学を直接仕事に活かすことができています。ドイツ文学を通して得た文化的知識は、商品説明文の作成や接客の際に、大学院で培った読解力は、本国ブランドのカタログなどの和訳作業につながっています。またドイツの職人が来日して、百貨店で実演を行う際は帯同して、通訳業務だけでなく、食事や観光などのお世話もしますが、彼らとコミュニケーションをとるのに、大学院時代の先生方や仲間との何気ない会話の内容を話のネタにしたりしています。どの業務も大学院に通っていなかったらこなせないものだと思います。そしてドイツ語に限らず、物事を多角的に見る目、臨機応変な対応、自分の意見はしっかり持ちつつも、相手の意見を柔軟に取り入れる姿勢など、社会人として身に付けなければならないことを、社会に出る前の大学院生の間で、先生方や仲間との密な関係の中で学ぶことができたのは、私にとって大きな財産になりました。

(2016年 修士課程修了)

* 博士課程修了生

14 初めての一人暮らし、大学の授業、サークル活動、アルバイト、海外旅行…学部生の頃は、世の流れに乗り遅れないよう生きていくのに必死でした。そんな私が大学院に入り、そこで先生方からいろいろな楽しいお話を聞いたり、仲間たちとドイツ語やドイツ文学について真剣に語り合ったりするなかで、初めて「ドイツ文学科の学生」になることができました。私は博士後期課程まで進み、専門の道に入りました。現在、地方の国立大学でドイツ語やドイツ文学を教えるかわら、地域連携の授業も担当し、学生引率では毎年ハンブルグに行っています。しかし私のような者ばかりではなく、博士前期課程を終えて社会人として立派に巣立っていった学友たちもたくさんいます。そして今でも年に一度は、いわゆるマスターで終えた学生もドクターに進んだ学生も分け隔てなく、恩師のもとに集まり、親睦会を行っています。上智大学院ドイツ文学専攻は、私に心のふるさとを与えてくれました。

(2002年 博士課程修了)



*博士課程修了生

15 現在、地方の国立大学でドイツ語を教えています。上智の大学院で学んだ知識と経験は、私の授業や研究だけではなく、日々の仕事のあらゆる場面において今なお役に立っています。これから先もずっとそうであると確信しています。ぜひ最高の環境で学問に勤しんでみてください。

(2007年 博士課程修了)

16 神奈川県私立大学でドイツ語を教えています。修士課程への進学が、研究者および教員としての私の本質的な部分を形成したと言えます。

思えば修士課程1年目は特に楽しかった。研究対象をデュレンマットに決めてからの修士1年の夏休み中ドブプリと全集を読みまくりました。本を読んで戯曲や映画を観て考えるというのが自分の仕事なんだ、誰にも文句を言われたい！(2年目に修論をまとめる段になって苦勞しますが…)ドイツ語能力も磨かなきゃいけないけれど留学も計画しているから、今まで経験したこともないことをこれから山ほど浴びるように経験することになる、という予感めいたものに浮かれていたのです。そしてその予感は当たります。あなたも、そんな予感がするでしょ？

(2003年 博士課程修了)

17 東京の私立大学に勤めて3年が過ぎました。主に理工系の学生にドイツ語を教えています。大学勤めの研究者は身体的にも精神的にもタフであることが求められ大変なこともあります。楽しく充実した毎日です。院生時代はずいぶんと贅沢な時間を過ごさせてもらいました。ドイツ語のテキストにじっくり向き合い、論文や発表を通して自分の表現力に磨きをかけることができました。時間だけはたっぷりあったので専門など関係なしに本を読み漁り、先生方や仲間からは、授業や論文指導のみならず、授業外での議論やたわいのないおしゃべりから沢山の刺激をもらいました。指導教授の先生から教わったすばらしいPino Noirの味が忘れられません。これらのすべてが今の自分につながっています。

(2009年 博士課程修了)

ドイツ文学専攻入試説明会は毎年、7月・11月に行なわれます。
教員及び、現役院生が直接質問等にこたえます。

◎お問い合わせは

上智大学ドイツ文学科(ドイツ文学科事務室)

TEL: 03-3238-3680 FAX: 03-3238-4147

E-mail: dgerlit@sophia.ac.jp

JR 中央線・総武線/東京メトロ丸ノ内線・南北線

「四ツ谷」駅下車 徒歩3分